



公益社団法人 日本薬剤学会

物性 FG（フォーカスグループ）セミナー 2022

振動分光による 原薬・製剤の物性評価

主催： 日本薬剤学会 物性 FG

協賛学会： 日本化学会、日本薬学会、

粉体工学会、製剤機械技術学会

日時： 2023 年 3 月 3 日（金） 10：30~17：05

星薬科大学百年記念館（東京都品川区）及び

オンライン(Zoom)のハイブリッドセミナー

参加概要

Zoom を用いたハイブリッドセミナーとなりますが、配信されたプレゼンテーションの画面録画や音声録音は禁止させていただきます。

一般参加費：セミナー（7000 円）

学生参加費：セミナー（無料）

支払は下記への銀行振り込みにてお支払い願います。

きらぼし銀行（金融機関コード：0137）、秋津支店（店番号：055）、普通口座：5028048

口座名：公益社団法人日本薬剤学会物性フォーカスブルー

シヤ）ニホンヤクザイガツカイ ブツセイフォーカスグループ

（領収書の必要な方は、登録連絡をして頂く際にその旨をご記載下さい）

会場（対面）

星薬科大学 百年記念館（〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41）

URL：<http://www.hoshi.ac.jp/site/>



お問い合わせ・申込み先

事務局：日本薬剤学会 物性 FG 事務局 担当 古石 誉之まで

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41 星薬科大学薬品物理化学教室内

電話/FAX：03-5498-5159、E-mail: apstj.fg.pp@hoshi.ac.jp

URL：<http://bussei-fg.com/>



主旨

振動分光とは、測定対象の分子振動を光で計測する技術であり、分子の構造や状態を知るために用いられる。振動分光法としては、赤外 (IR) 分光法、Raman 分光法、近赤外分光法 (NIR)、テラヘルツ分光法などがあり、いずれの手法も原薬や医薬品製剤の評価法として用いられている。IR 分光法は古くから化合物の同定や定量などに利用されており、近年では放射光を用いた手法や AFM-IR 法などの新しい手法も開発され、より高感度・高空間分解能のデータが得られるようになってきている。Raman 分光法は、第 17 改正日本薬局方の第二追補に収載されたことから分かるように、近年医薬品分野で特に普及が進む手法である。前処理なしで、非破壊・非接触で測定できることから、低分子医薬品のスクリーニング、錠剤のイメージング、品質管理など、様々な目的で応用が進んでいる。特に最近では、抗体や細胞などのバイオマテリアルを Raman 分光法により評価する新しい試みも始まっている。NIR 分光法は Process Analytical Technology (PAT) に有用な手法として広く認識されており、製薬企業の生産現場で混合や造粒工程の管理に実用化されている。本セミナーは振動分光分析の初心者から中級者を対象に、「わかりやすい」をコンセプトとしている。振動分光の魅力を日々追求している産学の研究者からご講演頂き、振動分光法の有用性や可能性について基礎から学ぶ。

プログラム

(司会：和歌山県立医科大学 岩尾 康範)

10：30-10：35 はじめに

東 顕二郎 (千葉大学)

(座長：第一三共 田村 幸介)

10：35-11：15 ◎振動分光の基礎～はじめての方に向けて原理から

笹倉 大督 (スペクトリス)

11：15-12：05 ◎低波数領域ラマン分光法の基礎と品質管理への応用

深水 啓朗 (明治薬科大学)

12：05-13：00 休憩

(座長：武田薬品工業 山本 克彦)

13：00-13：40 ◎バイオライフサイエンス分野への Raman 分析の応用

廣瀬 侑太郎 (堀場製作所)

13：40-14：30 ◎オリジナルラマンプローブによる高精度・多重イメージング

神谷 真子 (東京工業大学)

14：30-14：40 休憩

(座長：中外製薬 杉田 和也)

14：40-15：30 ◎高輝度赤外線領域放射光を利用した分光と物性評価

池本 夕佳 (高輝度光科学研究センター)

15：30-16：10 ◎ナノ分解能の新しい赤外分光技術 AFM-IR

横川 雅俊 (ブルカー・ジャパン)

(座長：国立医薬品食品衛生研究所 安藤 大介)

16：20-17：00 ◎PAT への振動分光の応用

深津 卓也 (アステラス製薬)

17：00-17：05 おわりに

我藤 勝彦 (大塚製薬)